

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】スポーツ科学科では「基礎演習」、健康科学科では推薦入学者対象に入学前教育が行われているものの、大学教育への導入教育としては、基礎学力や問題解決能力の向上に関する対応が不十分なところも見受けられる。					
点検・評価問題点	基礎学力のばらつきや学習に向けての姿勢に個人差がみられる。					
改善方策	3-109-1 高大提携の一環として、健康科学科の一部の推薦入学者にみられる基礎学力の低い学生の学習指導を提携校教師に依頼し、理系科目の授業を学内で実施する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
高大連携の担当教員を選任し、運用方法を検討する。		2011.3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 高大連携の担当教員を選任し、2011年から高大連携校の教師が学内で授業を実施することを決定した。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
提携校教師による理系科目(化学と生物)の学内授業の実施		2012.3	<input type="radio"/>	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
実施授業科目の選定と他の授業科目の実施の検討		2013.3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 実施科目の評価に基づく選定と他の授業科目の実施の検討			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
4年次生新カリキュラムを開始 実施授業科目の学習効果の評価		2014.3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】スポーツ科学科では「基礎演習」、健康科学科では推薦入学対象に入学前教育が行われているものの、大学教育への導入教育としては、基礎学力や問題解決能力の向上に関する対応が不十分なところも見受けられる。
点検・評価問題点	基礎学力のばらつきや学習に向けての姿勢に個人差がみられる。
改善方策	3-109-1 高大提携の一環として、健康科学科の一部の推薦入学者にみられる基礎学力の低い学生の学習指導を提携校教師に依頼し、理系科目の授業を学内で実施する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

高大連携の健康科学科の担当教員が中心となって、学内での授業の実施や運用を決定し、提携校担当教師による学内授業が次年度から実施される運びとなった。

所見	導入教育に対する改善方策に練り直してください。
----	-------------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

2011年度より、単位制の高等学校である埼玉県立吹上秋桜高等学校と高大連携の協定を締結し、夏季休業中に吹上秋桜高等学校の生物・化学担当教員による補習授業を実施した。この事業を通して、本学参加学生の入学後における基礎教育（化学、生物）の強化が図られたとともに、本事業を学科の特色として位置づけることができた。次年度以降も引き続き実施し、入学時における学力不足を補う努力を行っている。

所見	改善が進んでいることを評価します。このまま進めてください。
----	-------------------------------

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

今年度も夏季休業中に吹上秋桜高等学校の生物・化学担当教員による補習授業を実施した。この事業を通して、本学参加学生の入学後における基礎教育（化学、生物）の強化が図られたとともに、本事業を学科の特色として位置づけることができた。次年度以降も引き続き実施し、入学時における学力不足を補う努力を行っている。

所見	現状の説明が前年度とほぼ同様になされていますが、「実施科目の評価に基づく選定と他の授業科目の実施の検討」についての記述を加えて下さい。
----	---

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年3月31日

認証評価指摘事項	「全学共通科目」は、教養教育のコアとされているにもかかわらず、必要単位数は学部により幅があり（0単位から20単位まで）、文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部では、教養教育のカリキュラムバランスの観点から検討が期待される。					
点検・評価問題点	「全学共通科目」は、教養教育のコアとされているにもかかわらず、必要単位数は学部により幅があり（0単位から20単位まで）、文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部では、教養教育のカリキュラムバランスの観点から検討が期待される。					
改善方策	3-110-6（新規）他学部にならう					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→					
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
他学部にならって実施した		2011年度	<input type="radio"/> A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	「全学共通科目」は、教養教育のコアとされているにもかかわらず、必要単位数は学部により幅があり（0単位から20単位まで）、文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部では、教養教育のカリキュラムバランスの観点から検討が期待される。
点検・評価問題点	「全学共通科目」は、教養教育のコアとされているにもかかわらず、必要単位数は学部により幅があり（0単位から20単位まで）、文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部では、教養教育のカリキュラムバランスの観点から検討が期待される。
改善方策	3-110-6（新規）他学部にならう

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

全学共通科目の中から必修総合体育の2単位が必要であり、残りは自由に取得できることとなっている。

所見	今後、他学部との情報交換などしながら状況を改善することが必要なのではないのでしょうか。
----	---

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

スポーツ・健康科学部では、両学科とも全学共通科目の中から総合体育の2単位が必修に指定されており、加えて、残りは自由に取得できることとなっている。

所見	この制度による問題点や他学部との差異についての記述がありません。他学部と比較しての現状把握が必要であると思われます。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年3月31日

認証評価指摘事項	【助言】全学部で履修登録単位数について、4年次には上限がない、または上限が高いため、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれる。					
点検・評価問題点	全学部で履修登録単位数について、4年次には上限がない、または上限が高いため、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれる。(助言)					
改善方策	3-120-4 (新規) 他学部にならない上限を決める					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
他学部にならって実施する。		2012年度	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 全学的な統一見解が示されていない			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
上限を49単位以下に制定する予定である。		2012年度	○	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	全学部で履修登録単位数について、4年次には上限がない、または上限が高いので、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれる。(助言)
点検・評価問題点	全学部で履修登録単位数について、4年次には上限がない、または上限が高いので、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれる。(助言)
改善方策	3-120-4 (新規) 他学部にならない上限を決める

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

4年次の履修登録単位数の上限はない。

所見	
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

4年次の履修登録単位数の上限はない。

今後、他学部にならって上限を定めるよう検討を進める。

所見	他学部と比較した上での、次年度の改善に期待します。
----	---------------------------

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

4年次の履修登録単位数の上限を49単位とすることで教授会において承認された。

例外科目（主に資格関連科目）について、現在学科教務委員会にて検討中である。

所見	事情は了解しました。今後の全学の推移を見守りたいと思います。
----	--------------------------------

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	<p>【総評】ファカルティ・ディベロップメント（FD）について、学部により取り組みの程度に差があり、文学部、経営学部を除く全学部において、教育指導方法の改善のための組織的な取り組みが不十分であり、改善が望まれる。</p> <p>【総評】2009（平成21）年度にFD委員会が設置されたが、定期的に活動していない。</p> <p>【助言】経済学部、外国語学部、法学部、国際関係学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、外国語学研究科では、教育・研究指導の改善のためのFDの組織的な取り組みが不十分であるので、改善が望まれる。</p>					
点検・評価問題点	FD委員会は設置されているものの、活動がやや停滞している。					
改善方策	3-122-1 FD委員を推進役として、授業改善のための研究会の開催、評価基準策定等学科の教育方法にかかわる課題の推進、授業参観制度を導入する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
研究会の開催 評価基準策定に関する検討と指針作成 授業参観制度の導入に関する検討と指針作成	2011.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成	
	2011.3	(B または C の理由) 大学院と合同で講演会を開催したがまだ不十分である。				
	2011.3					
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
評価基準の導入 授業参観の導入	2012.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成	
	2012.3	(B または C の理由) 授業参観の導入が不十分である。				
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
授業者からの報告等に基づく研究会の導入 授業参観の導入	2013.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成	
		(B または C の理由) 授業参観の導入が不十分である。				
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
授業者からの報告等に基づく研究会の開催 授業参観の導入		A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成	
		(B または C の理由)				
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
		A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成	
		(B または C の理由)				
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
		A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成	
		(B または C の理由)				

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	<p>【総評】2009（平成21）年度にFD委員会が設置されたが、定期的に活動していない。</p> <p>【助言】経済学部、外国語学部、法学部、国際関係学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、外国語学研究科では、教育・研究指導の改善のためのFDの組織的な取り組みが不十分であるので、改善が望まれる。</p>
点検・評価問題点	FD委員会は設置されているものの、活動がやや停滞している。
改善方策	3-122-1 FD委員を推進役として、授業改善のための研究会の開催、評価基準策定等学科の教育方法にかかわる課題の推進、授業参観制度を導入する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

大学院と学部の合同講演会を開催したが、今後も学部FDとのバランスに配慮しながら定期的な講演会を実施する。授業参観については実施に向けての環境は整いつつあるが、定着はしていないのが現状である。今後、授業参観を定期的にも実施し、授業改善、評価基準等を策定する。

所見	組織的なFD活動は未だ不十分であり、更なる活性化が求められる。
----	---------------------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科FD担当委員を中心として、2回の授業内容検討会及び1回の研究会を実施した。スポーツ科学科1年生対象授業「フレッシュマンセミナー」、2年生対象授業「スポーツキャリア」の2科目に関して、授業担当者からの授業の狙いや授業内容等の説明と工夫点、等に関する説明の後、参加者との授業改善に向けての意見交換を行った。また、両授業はキャリア教育にも直結している部分があるので、別途両授業とも連関するスポーツ科学科としての授業の在り方、および指導の在り方に関して研究会を開催した。

さらに、全学的にも「フレッシュマンセミナー」の授業担当者が第5回FDフォーラムにおいてスポーツ科学科の取り組みに関して事例発表を行った。

しかし、授業参観等の実施にまで至っていないので今後の課題である。

所見	改善が進んでいることを評価します。このまま進めてください。
----	-------------------------------

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

今年度もスポーツ科学科FD担当委員を中心として、2回の授業内容検討会及び1回の研究会を実施した。スポーツ科学科1年生対象授業「フレッシュマンセミナー」、2年生対象授業「スポーツキャリア」の2科目に関して、授業担当者からの授業の狙いや授業内容等の説明と工夫点、等に関する説明の後、参加者との授業改善に向けての意見交換を行った。また、両授業はキャリア教育にも直結している部分があるので、別途両授業とも連関するスポーツ科学科としての授業の在り方、および指導の在り方に関して研究会を開催した。健康科学科においても1年生を対象として「フレッシュマンセミナー」を開催した。

授業参観等の制度を導入したが実施には至っていない。

所見	改善が進んでいることを評価します。授業参観実施については、なんらかの見直しが必要かと思われます。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	<p>【総評】シラバスは全学部で様式が統一されているが、全般的に教員間で記載に精粗があり、特に経済学部、国際関係学部を除く全学部において、精粗が見受けられるので、改善が望まれる。</p> <p>【総評】シラバスはホームページで公開されているが、記述に精粗があるため、履修者が予習に利用するには内容が不足しており、学生の利用率も低いので、改善のための工夫が望まれる。</p> <p>【助言】全般に教員間でシラバスの記載に精粗があり、特に文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、外国語学研究科において、成績評価基準が不明確なものなども散見されるので、改善が望まれる。</p>					
点検・評価問題点	シラバスはWebに公開されているが、両学科とも学生の授業評価アンケートによると利用率は低い。					
改善方策	3-122-3 シラバスの内容を改善するため、成績評価基準を明確化し、記載を徹底する。シラバスの内容に沿った授業を徹底する。全学との連携を図りながらポータルサイトを通じてシラバスの内容を周知させる。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
成績評価基準を明確に記載し、シラバスの内容に沿った授業を徹底する。また全学との連携を図りながらポータルサイトを通じてシラバスの内容を周知させる。		2011. 3. 31	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 成績評価基準が不明確な記載がまだ、一部の教員に見受けられる。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
成績評価基準を明確に記載し、シラバスの内容に沿った授業を徹底する。また全学との連携を図りながらポータルサイトを通じてシラバスの内容を周知させる。		2012. 3. 31	○	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
前年度の活動の継続		2013. 3. 31	○	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	<p>【総評】シラバスは全学部で様式が統一されているが、一般的に教員間で記載に精粗があり、特に経済学部、国際関係学部を除く全学部において、精粗が見受けられるので、改善が望まれる。</p> <p>【総評】シラバスはホームページで公開されているが、記述に精粗があるため、履修者が予習に利用するには内容が不足しており、学生の利用率も低いので、改善のための工夫が望まれる。</p> <p>【助言】全般に教員間でシラバスの記載に精粗があり、特に文学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、外国語学研究科において、成績評価基準が不明確なものなども散見されるので、改善が望まれる。</p>
点検・評価問題点	シラバスはWebに公開されているが、両学科とも学生の授業評価アンケートによると利用率は低い。
改善方策	3-122-3 シラバスの内容を改善するため、成績評価基準を明確化し、記載を徹底する。シラバスの内容に沿った授業を徹底する。全学との連携を図りながらポータルサイトを通じてシラバスの内容を周知させる。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

シラバスの成績評価基準の不明確な記載やシラバスが授業内容に反映されていない教員が一部に見受けられる。シラバスの内容に沿った授業を徹底し、また授業時のシラバスの閲覧機会が少ない点については全学的な対応を要請する。

所見	シラバス記載内容の見直しは学部単位でも可能であり、対応が求められる。一方で、学生によるシラバス閲覧機会が少ない点は学部限定されたものではないと思われることから、全学的な対応が必要であるものと思われる。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

学長より、シラバス記載の統一基準として、「2012年度シラバス記入例」が全学的に示され、これに基づいて記入することが要請された。

Web-シラバスのほぼ完全な記載が全教員でなされた。

所見	改善が着実に進んでいることを評価します。
----	----------------------

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

Web-シラバスのほぼ完全な記載が全教員でなされた。

両学科において委員を選出し、チェック体制を整備した（委員の指導の下、シラバスのチェックを実施した）。

所見	目標が達成されたことを評価します。
----	-------------------

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	<p>【総評】「国際交流を視野に入れて多様な価値観に対応できる柔軟な姿勢で、主体的に活動できる人材を育成する」ことが教育目標に掲げられているが、学部、学科としての交流協定校はない。</p> <p>【総評】教員の学术交流も国際学会参加のみに限られているなど、必ずしも活発ではない。</p> <p>【総評】学生の留学についても、派遣、受け入れとも少なく、国際交流の基本方針は達成されていないので、改善が望まれる。</p> <p>【総評】文学部、国際関係学部、環境創造学部、外国語学研究所、法務研究科以外では、国際交流が活発とはいえないので、改善が望まれる。</p> <p>【助言】全学において、国際交流の目標を定め、各学部、各研究科においても到達目標として国際交流の推進を掲げているが、経済学部、外国語学部、法学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、アジア地域研究科、経営学研究科では、留学生の派遣、受け入れ実績および国際シンポジウムなどの開催状況も含め、国際交流が活発とはいえないので、改善が望まれる。</p>					
点検・評価問題点	国際的な学术交流が少ない点が問題である。					
改善方策	3-124-1 留学制度および教員の学术交流を促進する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
スポーツや交換留学制度の充実に関する検討 交換留学制度に取り組む。		2011.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 教員については達成されている。 交換留学制度の取り組みについては不十分である。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
留学制度および教員の学术交流を企画する。		2012.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 教員については達成されている。 交換留学制度の取り組みについては不十分である。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
留学制度および教員の学术交流の実施		2013.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 教員については達成されている。 交換留学制度の取り組みについては不十分である。 しかし、2013年3月スポーツ・健康科学部が主体となって、中国；上海体育学院、オランダ；シオス大学ノバ校との学术交流協定が締結され、今後交換留学制度が実施に向けて加速されることが期待される。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
留学生の派遣、受け入れおよび教員の学术交流の実施			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成

		(B または C の理由)		
2015 年度実施計画	達成時期	2015 年度取り組み結果		
		A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
		(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	<p>【総評】「国際交流を視野に入れて多様な価値観に対応できる柔軟な姿勢で、主体的に活動できる人材を育成する」ことが教育目標に掲げられているが、学部、学科としての交流協定校はない。</p> <p>【総評】教員の学術交流も国際学会参加のみに限られているなど、必ずしも活発ではない。</p> <p>【総評】学生の留学についても、派遣、受け入れとも少なく、国際交流の基本方針は達成されていないので、改善が望まれる。</p> <p>【総評】文学部、国際関係学部、環境創造学部、外国語学研究科、法務研究科以外では、国際交流が活発とはいえないので、改善が望まれる。</p> <p>【助言】全学において、国際交流の目標を定め、各学部、各研究科においても到達目標として国際交流の推進を掲げているが、経済学部、外国語学部、法学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、アジア地域研究科、経営学研究科では、留学生の派遣、受け入れ実績および国際シンポジウムなどの開催状況も含め、国際交流が活発とはいえないので、改善が望まれる。</p>
点検・評価問題点	国際的な学術交流が少ない点が問題である。
改善方策	3-124-1 留学制度および教員の学術交流を促進する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

これまでの交換留学制度や教員の国際交流の取り組みについては不十分であり、学生の留学制度および教員の学術交流の企画を具体的に検討する。

所見	学生・教員ともに国際交流促進の具体的方策をより具体的に検討することが求められる。また、交換留学制度の協定化も含めると、2011年度中の達成は難しいかもしれない。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

教員の国際交流の取り組みについては、本年度はオランダ：シオス大学、中国：上海体育学院の両大学に教員3名を派遣し、学術交流協定の締結に向けて交渉を行っており、両大学共に積極的な対応をして頂いている。しかし、交換留学制度の取り組みについては、制度の検討には至っていない。今後の学術交流協定の検討内容に含む形で具体化を進めていきたい。しかし、2011年度の学生の派遣数と受入数は0である。

所見	今後の改善に期待します。特に交換留学生制度について次に検討を進めてください。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

教員の国際交流の取り組みについては、本年度は中国；上海体育学院、オランダ；シオス大学ノバ校の両大学に教員1名を派遣し、学術交流協定の締結に向けて交渉を行った。その結果、2013年3月スポーツ・健康科学部が主体となった上記両大学との学術交流協定が締結された。これまで交換留学制度の取り組みについては不十分であったが、今後具体的な交流内容に関する覚書等の確認によって、交換留学制度が実施に向けて加速されることが期待される。

所見	改善がなかなか進まないようですが、今後の取り組みに期待します。
----	---------------------------------